# 第５回静岡市行財政改革推進審議会会議記録

と　き　平成23年８月12日（金）
午後３時から４時30分まで
ところ　静岡庁舎本館３階第１委員会室

１　開　　会

２　議　　事

（１）静岡市事務事業市民評価会議の結果と今後の進め方について（資料１）

（２）行財政改革推進大綱実施計画の 22 年度実績の報告（資料２）

（３）その他

３　閉　　会

２　議　　事

（１）静岡市事務事業市民評価会議の結果と今後の進め方について（資料１）

酒井会長

市民評価会議の結果については、新聞等にも多く取り上げられていたので、皆さんも御承知のことかと思うが、当行革審から３名の委員の方に参加していただいた。事業1‐1～16の評価には望月委員、2‐1～16には中町委員、3‐1～16には兼高委員に参加していただいた。まず、３名の委員に参加した感想を伺いたい。

望月委員

全体に準備期間が大変短かったが、関係者の方達のご苦労もあり、市民のアンケートを見ても、前向きに温かい目で見ていただいたのではないかと思う。

３つほど感じた点を述べたいと思う。まず１つは対象事業の選定について、２つ目は評価者の事業に対する理解を深めるにはどうすればよいかについて、３つ目に事業の目的や内容など、担当職員があらかじめ示した論点のわかりにくさについてだが、１つ目として、市民のアンケートにもあったが、今回どうしてこの事業が選ばれたのか、なぜこの事業を我々が評価するのかというような感想が評価者から多かったように思う。事業選定に市民が関与できるか検討が必要である。H26まで継続するという市長の言葉もあるので、全体計画を示して、その中で今年度はこういう方向でするということが、もう少し見えればわかりやすかった。

２つ目に、評価委員が共通の認識をもっていたかという点で、対象事業には範囲の広いものから、１項目のみで完結しているような小さいものまであり、果たしてこの事業の評価だけで正しい判断ができるのか不安もあったように思う。関連事業に対する影響はどうなのか、当該事業を含む分野の全体の方向性はどのようなもので、その中の１つの事業を評価することでどのような効果があるのかといったことが見えにくかったように思う。できれば事前の説明会でこの事業を含む政策の考え方についてもう少し勉強できれば良かった。この点については、事業課からというよりも全体像をつかんでいただくということで、行政管理課からでも良いと思う。

それから最後に、事業仕分けと事業評価の言葉の違いもあるかもしれないが、共通の考え方という点で課題があったかと思う。評価委員と職員の意見交換も上手くできていたのか疑問に感じた。45分間で評価するための論点というものがあったが、これにもばらつきがあった。例えば、事業仕分けの見かたで論点を見ると、この事業はそろそろ廃止にした方がよいのではと担当者の方からあらかじめ投げかけられる事業もあったり、効果があがる事業方法はどのようにしたらよいか、事業の今後の方向性について提案をいただきたいというものもあり、はたして事業の企画についてこの場で議論することがふさわしいかどうかと感じることもあった。

また、評価会議の具体的な目標として、個別事業ではプラスマイナスがあっても、全体で今年度はこれだけの節減額を生み出して、次の新たな事業にそれを回したいというよう

なものがあれば分かりやすかった。いずれにしても、２日間で16事業を評価するために、評価委員の皆さまは事前の勉強に相当時間を費やしたことと思う。２日間いい経験をさせていただいた。

中町委員

仕分けにあたっては前もっての時間が大事だったが、評価者は精力的に事前のチェックをしていた。例えば、浜石野外センターを見に行ったり、浪漫バスや清水まちなか巡回バスに乗ってみるなど、自分が評価する事業を経験していた。具体的には、バスが大きな問題となっていたので、山間部のバスの運行状況を見るなど、事前に勉強をして今回の仕分けに臨んでいた。積極的な取組を背負っているという意識を持って評価者は仕分けに臨んでいた。その中で、今回これが初めての仕分けであるが、廃止や特に改善という結果が、今後どういう形で実行されるか、いつ、また具体的な内容としてどういうマイルストーンや工程管理となるのか、そして、それが見える化され進捗管理が開示されてはじめて今回の仕分けの成果が議論できるのではないか。単にやっただけでは何にもならない。行政の皆さんには今後そういう試みで取り組んでもらいたい。

また、象徴的なことがあったので話しておきたい。評価委員の方から、市がピックアップした対象事業について、よくこのような事業をまな板にのせたなという意見があった。税金の無駄使いであり、このような事業をなぜ今日まで放置してきたのか、年間何千万円ものお金が無駄に使われてきたことをどう考えるかと指摘される事業が２件あった。全員一致で不要と判断された事業である。おそらくそのような感想をもった評価者は、ストレートな言い方の他に、このような事業をよく取り上げてくれたなと感じていたのではないか。どういうことかというと、おそらく市の内部にはこの他にもこれらと似たような本当の無駄があるということを浮き彫りにしてくれたと感じたと話していた。その時に市の職員がどう感じたかは気にかかるが非常に象徴的な案件だった。今後は、マイルストーンをはっきりさせ、工程管理を見える化して、それを進めていくリーダーをどういった人にやらせるかが大きなポイントになる。具体的には、おそらく説明した職員は課長以下なので、部局長がリーダーとなって行財政改革に積極的に強烈なリーダーシップを見せていってもらいたい。

兼高委員

私は３班に参加させていただいた。非常に幅広い事業を評価したが、もともとこれらの16の事業がどういう経緯でどういう狙いをもって挙がっているのかが知りたかった。

緑化奨励補助金という事業が評価の結果、改善となったが、これは不要に近い改善であり、このように、４つの評価区分でも違ったニュアンスの中で強引に区分されていることを承知してもらいたい。改善の中にも温度差がある。改善でも、あと少し改善してもらいたいものや、ほとんど不要だが乱暴に廃止とは言わず改善の余地があると評価したものもある。

そして、「評価とは」という擦り合わせが評価者間、そして職員の間でもどれだけの共

通理解のもとスタートできていたか疑問に感じた。というのも、3‐11の道路整備事業に関して、山間部の道路と生活道路の整備を対象としたが、こういうものは不要という判断がなかなか出来ず、評価が非常に難しかった。評価者も頭を抱えていた。このように、市は一体何を評価者に期待しているのかわからないものもあった。道路の改修や整備は要らないというのはあり得ないけれども、対象事業であるから何とかしようというような、評価にそぐわないものもあった。このそぐわないということが、評価者の間で共通理解されていなかった。評価者は、何を評価し、どういう判断で４つの区分に評価するのか、事前の説明不足、共通理解の不足があったように思う。

ここまでは、ネガティブな感想だが、ポジティブな感想として、非常に意義のある２日間であったと思う。というのも、当事者の職員から、これはどうかなと普段からグレーな事業だと思っていたが、背中を押すきっかけがこれまでになくて毎年予算計上してしまっていたと思わせるような発言もあったので、そこで民間のしがらみのない評価者から、不要ですね、足りないですね、もっと力を入れてくださいというような投げかけをすることで、内部の活性化が進むのではないかという印象を受けた。

最後に、白色トレイ及び紙パック収集運搬業務とペットボトル回収業務というのがあったが、これは旧静岡市と旧清水市との合併作業の中で、旧清水市の市民の方が行ってきたリサイクルの取組について、合併をしたからといってやめるのではなくこれまで続けてきたが、合併から数年経っているのに今まで手つかずでいたという事業があった。なので、そろそろ擦り合わせをして、静岡市として同じ取組を行った方が良いのではということで評価をした。このように、これまで手つかずでいたものが、評価を行うことがきっかけとなって、新たな方向性を導き出すチャンスになってくれれば良いなという動きもあったということをご報告しておく。

酒井会長

３人の委員の皆さまありがとうございました。２日間大変だったと思う。事前に勉強や質問などもしていたと伺っており、非常に時間のかかった取組だったと思う。行革審としては、この評価会議や結論に対して意見を述べる立場ではないので、これ以上この内容について入り込むようなことはしないが、行革審としては、これからこの結果が219の実施計画の進め方のスピードや、重さ、量の拡大などに反映されることを期待している。

この評価会議を受けて、事業の見直しの今後の事業スケジュールについて事務局から説明があったが、この点について何か意見があるか。資料１－２にあるとおり、若干スケジュールが遅れているということだが、次の10月の行革審で改訂版実施計画の概要を示してもらえるということだがよろしいか。また、先ほど中町委員からあったが、評価後、今後どのようにそれがクリアになっていくのか、どのようなステップで行っていくのかということが評価会議では大事なことだと思う。行革審としては、評価会議の結果を受けてどう見直されたかが分かると良いかと思うが、このスケジュールについて何か意見質問等があるか。

朝日委員

この50事業はどのように挙げたのか。

事務局

市の裁量の余地のないものや、100万円以下の事業を除き、課題のあるものを基本的には所管課から出させ、さらに事務局で総合計画等を見て、関係分野などを照らし合わせながら選定した。

朝日委員

仕分けの対象にならないものもあるということか。

酒井会長

もちろんそうである。事業の選定については、新聞等にも掲載されていたがこれからどうクリアにしていくか課題になろうかと思う。

（２）行財政改革推進大綱実施計画の22年度実績の報告（資料２）

酒井会長

各事業については触れずに、全体を説明していただいたが、何か意見質問等あるか。

望月委員

定員管理について、ケースワーカーの需要が毎年高まっているかと思うが、ケースワーカーは生活保護の受給者の人数に応じて毎年加減するものなのか。受給者が毎年増えていく可能性があるかと思うが、ケースワーカーの人数はある程度予想がつくものなのか。

事務局

ケースワーカーについては、平成21年度に厚生労働省の特別監査においてその不足が指摘されたため増員した。生活保護の受給者が増えるからと言ってケースワーカーが単純に増えるというものでもない。職員の新規採用となれば、定員増となるため、今後の見込を各福祉事務所と精査しながら確認していく。ケースワーカーの増員をすべきかどうか、また福祉事務所内で人の融通が可能ではないかなどを協議しながら決定している。

石川委員

219の事業に対して、目標を達成した37事業というのは表をどう見ればわかるか。平成22年度から26年度の５カ年のうち、初年度の今年度は目標達成のための準備や調査をするため効果額としては数字に表れていないが、そのためのステップを踏むといったものが非常に多いが、その準備などは数字には表れないので検証できないがそこをどう判断しているのか。目標とした数値を達成したものを今年度達成した事業としているのか。

事務局

個票の事務事業プログラムの欄に、◎が実施、△が調査・検討、○が一部実施、→が継続ということで評価している。平成22年度に実施し、実績欄に◎が記載してあれば終了と判断している。

石川委員

では、目標を達成した37事業というのは、平成22年度の実績に◎がついていて、かつ効果額が想定よりも多い場合には実施済みということか。数字が入っていれば実施済みということか。

事務局

効果額については、最初から入るものがなければ記載がないので、所管課において当初の目標どおりのものが達成できた場合には◎を記載している。

酒井会長

例を示すと分かりやすいと思うが、個票の44番、消防車両の小型化というものがあるが、確かに平成22年度の実績の欄に◎が記載してあり、効果額については計画が6,400万円で実績が5,200万円ということだが、これを達成と判断するのか。

事務局

平成22年度の計画は９台の内、８台を小型化するとしていたが、実績は見直しも入り、10台の内、９台を小型化できたということで、毎年度こういう形で計画に対する実績を記載しており目標に到達したかどうか判断している。金額については若干の差はあるが、到達と判断している。

この44番の事業については、毎年度計画があり取り組む事業だが、目標達成した37事務事業というのは、平成22年度に◎が記載してありそれ以降は→（継続）となっているもの、平成22年度にのみ取組計画があり実施できたものを到達と判断している。例えば、48番の事業は平成22年度に委託化の計画があり、実際に平成22年度に実施できたので完了としている。

酒井会長

そうすると、44番の事業は効果額は目標に達していないが、実績が◎ということで目標を達成した37事業に含むということで良いのか。

事務局

44番については毎年度計画があるので、５年経過しないと完了とはならないため、継続と捉えている。ただ、年度ごと実施はしている。

酒井会長

ではこういうものは全ての計画が終わった段階で完了ということか。

事務局

そうである。

小林委員

この37事務事業というのは、平成22年度の計画に◎があり、実績にも◎があり、それ以降の計画には◎がないものということだが、16.9％というのは219事務事業に対してなのか。とすると、この数字は低いように見えるがそうではなくて、今年度達成すべきもののうちどれぐらいが達成できているのか。ほぼ90％以上は達成しているようにみえるが。

酒井会長

今年度で捉えた時の達成状況ということ。

小林委員

平成22年度の計画がどれだけ達成できたかということも両方記載した方が良いのではないか。

事務局

確かに16.9％というのは、219事務事業中の数値であり、平成22年度に達成すべきものの達成率については記載していないため、改善していきたい。

大畑委員

節減額の内訳について、給与制度の見直しで計画が800万円のものが、実績は８億円と大きくなっているが内容を具体的に教えてもらいたい。

人事課長

個票の84番になるが、給与制度の継続的な改革ということで、平成22年度には特殊勤務手当の見直しを行うということで、計画額としては800万円挙げていた。実績としては、特殊勤務手当の見直しは579万円で目標には達しなかったが、追加として人事委員会勧告に基づく給与改定を行い、給与を1.19％減、期末・勤勉手当を0.2月減で、８億2,500万円削減し、合計の効果額が８億3,100万円余となった。

小林委員

未利用土地の売却について効果額が目標に達していない理由はどのようなものがあるか。

事務局

市有地について入札を行ったのだが不調に終わったものがある。これが原因である。例えば、面積の大きいもので、病院関係の土地の入札が２件あったが、２件とも不調となっている。

酒井会長

計画値と実績値とで乖離がある。本当に売れる物件なのか。売れないものがそもそも計画に挙がっていないのか。

事務局

利用できる土地である。

小林委員

なぜ応札がないのか。

事務局

そこまでは把握していない。

中町委員

人事課の説明に違和感がある。この行財政改革というのは市が努力目標を掲げてそれに対して達成していくものであり、先ほども、219の事務事業に対して、平成22年度は37事業16.9％という数字が、目標に対する達成率ではないという指摘もあったように、目標に対する

意識がずれているのではないか。具体的には、給与制度の改革ということで800万円の目標に対して８億円の実績としている点で、この84番には具体的な計画として特殊勤務手当の見直しなどの目標が掲げられていて、800万円という計画値があるのだから、それに対する実績が500万円であるなら、達成率も500万円でなければならない。８億円の減という、人事委員会勧告に基づくようなやらざるを負えないようなものまで含めてしまうと、数字そのものの信頼性がなくなってしまう。目標に対する実際の達成率を表現してもらいたい。

人事課長

人事委員会勧告については当初の計画段階ではわからないため挙げられなかったが、計画値と実績値の考え方については中町委員のご指摘ももっともである。

事務局

現在は219の事業にあわせて整理してしまっているので、手当等の計画以外で節減が実施できたものとして整理していく必要がある。

酒井会長

もともと、効果額の括り方として、目標額を設定していない取組又は実施計画登載外の取組という括りがあるのだから、本来これは分けるべき。行革審として、人事委員会勧告のことまで想定して計画に盛り込めとまでは言わないので、中町委員の指摘のとおり、800万円の目標のものと一緒にしてしまうと分かりづらくなってしまい、あたかも成果があったように見えるのも正しくないと思うので、そこは分けていただき、当初の計画に対する進捗状況を把握してもらいたい。

井戸委員

２点ほどお聞きしたい。まず、節減額の内訳の中で、市立病院の経営改善について実績額が計画額の２倍近くになっており、また収入についても市立病院の経営改善が計画額に対して実績額が２倍近くになっている。様々な検討をされたためかと思うが、この結果、静岡、清水の両市立病院の単年度の収支は黒字化したのか。２点目に、節減額の内訳に補助金等の見直しがあり、実績額を見ると成果が挙がっているようだが、個票を見るとすでに平成17年度から実施しており平成19年度までに10％削減、さらに22,23年度で10％削減し、トータルで20％削減することになっている。計画では、平成23年度の完了となっているが、計画どおりできるのか、補助金についての今後の見通しについてお聞きしたい。

財政部長

市立病院の収支については、平成22年度、静岡病院については黒字、清水病院については赤字となっている。静岡病院の黒字額は４～５億円となっており大幅な黒字となっている。

補助金については、この大綱を作成したタイミングと実際に予算を見直したタイミングが少し違っており、計画では平成22年度に３億、平成23年度に６億となっているが、詳細に予算段階で拾ったものが算出基礎の欄に記載されており、対象となる補助金等が410件約52億円で、22,23年度で10％削減を計画しているので、平成23年度の計画額は最大でも５億２千万円になる。そういう意味で平成22年度はほぼ半分の２億５千万円が削減できた。平成23年

度は当初予算段階で、６億８千万円まで削減できている。そのため、平成23年度も10％削減以上の成果が出ている。今後も制度が変わっていく中で、大規模な見直しは難しいと思うが、時代に流れに沿って見直していきたいと考えている。

井戸委員

清水病院はどれぐらい赤字か。

財政部長

６億９千万円程である。

井戸委員

黒字になる見通しはあるか。

財政部長

なかなか厳しいと感じている。病院の収入については保険料の算定の仕方で影響が出る。静岡病院の黒字化は保険料の改定を診療所に比べ病院に対し厚めに行ったため、良くなっているが、まだ診療所に比べ保険料の改定が足りないかと感じている。清水病院の黒字化はすぐには難しい状況である。

井戸委員

先ほどの目標に対する実績の捉え方で人事課に聞きたいが、東日本大震災の影響で国が財源捻出のため、国家公務員の給与10％削減に併せて、地方公務員の給与10％にあたる交付税を減らすという話が出ており、これが実行されれば、実際に給与を10％減らすかどうかは各自治体の判断に任せられるだろうが、そうなれば来年度以降相当の節減額が出ることになるかと思う。その計画については慎重にしてもらいたいと思うが、そのあたりの見通しなどはあるか。

人事課長

地方交付税が削減されるという話もあったが、現行では全く未定であり、静岡市としても国の動向を注視しながら給与については検討していく。

酒井会長

大きな括り（２）の中で、目標額を設定しない取組というのはそれほど項目としてない。今年度、額として挙がっているのは１項目か２項目であり、すると45億の効果額のうちそのほとんどは実施計画登載外の取組ということか。

事務局

目標額を設定していない取組としては、公共コストの縮減を挙げている。これはもともと節減額を設定していないもので、実施計画には登載しているが額は載っていない。

酒井会長

確認したいことだが、病院と、上下水道については別の委員会で経営改善を進めているので、行革審では細かい部分までは入り込まず審議は控えるということにしていたが、そちらとの整合性はとれているのか。今回の実績でそちらの経営努力はどうなっているか。この個票の実績を見れば分かると思ってよいか。

事務局

企業局、病院局と実績を共有してデータを載せている。

酒井会長

節減額の内訳で計画額と実績額が一番乖離しているものが、適正な定員管理と最適な職員配置であるが、計画が６億円に対し実績が３億円となっている。個票が見づらく少し分かりづらいので、なぜ実績が50％程度で達成できていないのか説明してもらいたい。

事務局

個票の83番、効果額・節減人工算出基礎の欄に年度の区分の考え方を記載しているとおり、定員管理計画については、増減員に向けた取組を行った年度に着目しているが、行革実施計画では、経費節減効果が発生する年度に着目している。したがって、平成22年４月１日時点の削減人員は、平成22年度の実績として計上している。

平成22年度は５年間の定員管理計画として見ると最終年度に当たる。計画の99人減に対し、実績が75人減となっており、単年度で見ると計画値よりも少ないが、５年間全体では、420人の削減目標をクリアしている。

酒井会長

もう一度個票を詳しく見てみることにする。いろいろな数字の表現があるかと思うが、行革審では純粋に、計画したものに対する成果を分かりやすく示してもらいたい。

大畑委員

今の83番に追加の質問で、人件費は削減されているが、非常勤嘱託数は増えている。算出基礎に正規職員は800万円/人、非常勤嘱託は300万円/人とあるが、この非常勤嘱託はどういう勤務体制で算出基準を決めているのか。

人事課長

非常勤嘱託については、週31時間勤務で、時間当たりの金額は短大卒の初任給を基礎としている。

酒井会長

その他質問があれば、次回の行革審でも答える時間を設けられると思う。

では、本日の審議は終了とするが、今後も計画達成のため精力的に取り組んでいただければと思う。

事務局

計画値と実績値にずれがあると指摘された部分について今後修正を行い、再度実績報告させていただく。次回の審議会は10月14日に開催する。以上で平成23年度第２回静岡市行財政改革推進審議会を終了する。

署名　　静岡市行財政改革推進審議会

会長　　酒　井　公　夫